

2012年6月10日

中国からの訪日旅行の現況について

上海産業情報センター

横江 隆弘

中国の方々の日本旅行のなかで最も関心のあるテーマは、桜です。東北地区大地震の発生後、1年余りが経過し、日本の桜シーズンを迎えた最近の中国からの訪日旅行の現状について報告します。上海においても在上海日本総領事館、日本国際観光振興機構(JNTO)を中心に、上海市旅遊局等に日本の最新情報を幅広く、そして正確に発信しながら、多くの地域では災害の影響がなく安心して旅行を楽しんでいただけることをアピールしようとしております。

今回はそのあたりの状況を、5月に出席参加した上海世界観光資源博覧会(WTF)の様子並びに訪問した広州の大手旅行社の反応を踏まえて報告します。

1 最近の訪日旅行の状況

JNTOが発表しているデータによると、今年1月から4月までの訪日外客数は、269.2万人で対前年比で見ると、31.8%の伸びになっていますが、大震災前の2010年1月から4月までの訪日外客数は、280.3万人となっていましたので、数字的には大震災前の状況にほぼ戻りつつあるといえるかもしれませんが、桜のシーズンの4月をみてみますと、世界中から日本を訪れた外国人客数は、約78万人であり、前年同月比プラス163.9%となっています。但し、2010年のデータは、78.8万人ですので、わずかながら震災前の数値には届いておりません。中国からの訪問客数について見てみますと、4月は約14万9千人であり、前年同月比プラス96.4%となりました。2010年のデータは、約15万人となっていました。さらに、2012年4月の訪日客数が2010年4月のそれと比較して増加している国家・地域は、台湾、タイ、マレーシアなどとなっています。このようにしてみるとほぼ震災前の状況に戻ったといえることができるかもしれません。

しかし、詳しくは後述しますが、訪日ツアーでは最も人気のあるツアーの一つである「桜の花見ツアー」が企画されていますが、価格の面ではかなり格安のツアーが多く、日本各地域への影響はまだまだ計り知れないことが伺えます。

しかし、復興に際してのある程度の期間はディスカウントもやむを得ないかもしれませんが、長く続けば日本のホテル・旅館、観光関係者に結局大きな負担を強いることになるだけでなく、中国の旅行社の訪日旅行への興味関心にも影響を及ぼすことにもなりかねません。この状況が長く続くことは訪日客が増えても、必ずしも好ましい状況とはいえないかもしれません。量と質とのバランスを重視しながら、根気よく、継続してPRしていくことが、肝要であると思います。

2 上海世界観光資源博覧会（WTF）に出展参加して

上海世界観光資源博覧会（WTF）は、5月10日から13日までの4日間にわたり、出展面積は13,000㎡で、50カ国から550の団体が出展しました。博覧会期間中、35,000名の参観者が来場し、そのうちの7,250名は旅行関係者であったそうです。

また、会場内販売及び団体旅行購入の優待商品の販売が行われ、総売上金額は877.5万元に達し、例年より大幅に増加しました。



愛知県は、静岡県及び名鉄観光㈱と共同出展するとともに、岐阜県及び長野県と協力を得ながら「日本中部」として出展し、中国華東地域を中心とした各地域の旅行社の方々



に中部地域の旅行ツアー造成に向けたPRを行うとともに、一般の中国人の方々に直接、東北大震災の状況及び放射能漏れの影響が全くないことを強調しながら、愛知県のそして中部地方の観光の魅力をモリゾー・キッコロとともに伝えました。モリゾー・キッコロに加えて、静岡県のマスコットふじっぴーのは、子供たちや若い人たちに大人気であり、写真を撮る列が続き、会場を大いに盛り上げることができました。

3 広東省の大手旅行社の直接の声

5月にお会いした広東省の旅行社の方々からお聞きした話をいくつかお伝えします。

広東南湖国際旅行社有限責任公司

出境旅遊中心日韓部	計調	向曉君氏
高端旅遊（VIP）中心	出境策划主管	李德芝氏
高端旅遊（VIP）中心	營銷副經理	潘碧靈氏

○現在、広州から中部国際空港までの直行便がないため、中部地方へ旅行するには、中国南方航空の上海経由便を利用しなければならないので、交通の不便さを感じている。

○「南湖国旅」の本州商品（東京 in/out⇄大阪 in/out）の中で、中部では豊橋市で宿泊する場合が少なくない。理由は二つある。①地理上では、豊橋を中間宿泊地と

して合理的であること；②豊橋にあるホテルが特別価格で手配することが可能であるため。

○今年の春に、桜の花見ツアー商品のほか、富山県の黒部地方を含めた商品（名古屋 in/out⇔大阪 in/out）を作ってみたが、売れ行きはよくなかった。今後、主に広州⇔関空の直行便を利用する関西路線（和歌山）を売り出す予定であるとのこと。

○地方宣伝のためには、広告面の協力も考えるべきだと提案されました。中部地方はとにかく宣伝が少ない、弱い。中部地方に、何があつて、何が面白いのかももっとPRすべきであると強調されました。魅力をどんどんと伝えるべきであり、その方法としてはビデオが最適であり、テレビ・新聞などを利用して効果が高いとのことです。

広之旅国際旅行社股份有限公司

出境遊総部日韓中心 経理 秦蓓氏
業務主任 李哲氏

○今年5月までの訪日客数は2010年同期の7、8割まで戻ったが、売上はよくない。価格の高い日本路線商品は売れず、代わりに、ヨーロッパ・東南アジア・アメリカなどの商品がよく売れるようになったとのことである。

○これから、夏休みに向けて高額高級路線の商品を作る予定はあるが、広州⇔名古屋間の直行便がないため、中部国際空港での in/out 商品は造成することは難しいとのことである。

○地震の影響はまだ残っている。最近お年寄り向けの低価格商品はよく売れるが、富裕層の顧客はまだ戻ってきていないのが現実である。また、日本への関心も薄くなり、初めて日本へ行く旅行者もほとんど日本各地を回ることができる本州路線商品を選択することが非常に多くなっている。

○6月末までレギュラー商品（上記の本州路線）を販売する予定である。夏休みに入ってから、親子連れ商品を企画する予定であるが、日本と比べ、中国では、航空会社からの座席確保が易しくないため、半年前からの商品を企画することはなかなか難しい状況である。今後2、3ヶ月の航空チケットの入手状況の様子をみた上で、夏休みの旅行コースを考えていく予定であるとのこと。

○本州コースは名古屋で宿泊する場合が少なくないため、名古屋市内の観光スポットを訪問する可能性はある。あいち戦国姫隊のショータイムは興味があるので、出演予定等を教えてほしい。

○現在、沖縄県は観光宣伝には力を入れている。

中国旅行社への広告支援。

中国人ツアーに対して、観光セレモニーをやる。

マルチビザでの勧誘。

今年の春、広之旅社が企画して、沖縄+東京のチャーター便を利用したツアーを販売したところ、240名が参加するという結果を得たとのことです。

そのうち、マルチビザの申請は15%程度とのことでした。

その他地域では、九州地域もPRはしっかりやっているが、地理的にも海南・東南アジアに行きやすいこともあり、北海道のほうに関心が行く傾向が強いとのことである。関西ルートも安い価格のツアーを作ってみたが、売れ行きは芳しくなかったとのことである。

最近、非常に熱心な努力により訪日ツアー、訪日外国人客が戻ってきているとはいえ、上記の旅行社の方の言葉にもあるように、日本向け旅行客の関心は大震災前の状況にはまだ戻っていないところだ。今後も粘り強く継続的にPRし続けていくことが大切と思われる。実際に現場で直接話を聞いてみると、日本への興味・関心が高いことがよくわかります。これからも地元地域をしっかり盛り上げていくようにPRしていきたいと思っております。上海産業情報センターでは、今後もこれらの状況に注視していきたいと考えております。